

林原美術館の建築

しおり Architecture Guidebook

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART



林原美術館

Access

- ・JR 岡山駅より徒歩でお越しの方
JR 岡山駅東口から約 1.5 km、徒歩約 25 分
- ・JR 岡山駅からバスをご利用の方
岡 電 バ ス：県庁・岡電高屋行きに乗車
宇 野 バ ス：四御神行き、片上行き、瀬戸駅行き、長岡・駅前行きのいずれかに乗車
岡 備 バ ス：西大寺行きに乗車
- ・JR 岡山駅より路面電車でお越しの方
東山行きに乗車「県庁通り」停車場で下車

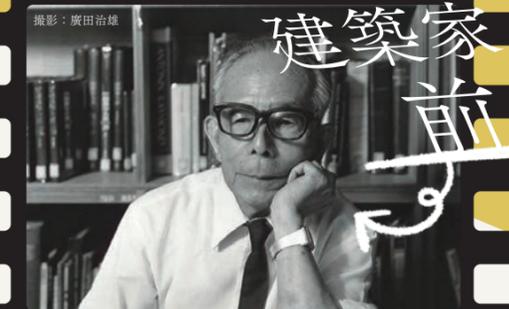
Contact

〒700-0823
岡山県岡山市北区丸の内2-7-15 TEL.086-223-1733
URL: <https://www.hayashibara-museumofart.jp/>

開館時間：午前10時から午後5時まで
入館受付は午後4時30分まで
休 館 日：毎週月曜日（祝日等休日の場合は翌日）
年末年始、展示替期間（不定期）
入 館 料：一般 500 円、高校生 300 円、小・中学生無料

デザイン協力
林原美術館・岡山大学
担当教員 川西敦史 堀裕典
建築設計学研究室 杉耕太 吉田和音
工学部工学科環境・社会基盤系 都市環境創成コース磯山亜純

発行：岡山県土木部都市局建築指導課 令和7年3月発行



建築家前川國男って？

Kunio Maekawa

前川國男は、ここ林原美術館の設計者です。高校時代に建築に興味を持ちはじめ、東京帝国大学（現/東京大学）工学部建築学科を卒業後、モダニズム建築の先駆者である建築家ル・コルビュジェのもとで近代建築の原理を学びました。帰国後、アントニン・レーモンドの事務所を経て、1935年に「前川國男建築設計事務所」を設立しました。前川國男が手掛けた作品は200以上もあり、その中でも公共施設の割合が高く、誰もが知らずのうちに身近な前川建築に触れているかもしれません。前川國男、そして事務所所属のみんなの様々な取り組みによって、その独自の方法で近代建築の考え方を日本へ定着させるために躍進し続け、モダニズム建築の旗手と称されています。

■岡山県における代表建築

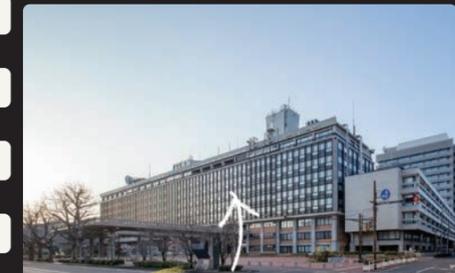
岡山県にある前川建築としては林原美術館の他に岡山県庁舎と岡山県天神山文化プラザがあります。

▶岡山県庁舎

昭和32年に完成した本庁舎本館は黒色のカーテンウォールの外壁が印象的です。3階にコの字型に配置された回廊は、県庁舎の玄関を明確にしています。回廊の手すりに使われている中が空洞になったホローブリックも特徴的です。令和6年3月に耐震化工事が完了し、同年12月に登録有形文化財に登録されました。

▶岡山県天神山文化プラザ

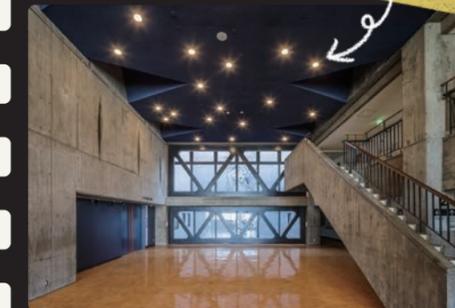
昭和37年に岡山県総合文化センターという名称で、図書館・展示室・ホールといった複合文化施設として開設しました。1階と2階をT字に直行させたような外観で、コンクリート仕上げでありながら鳥柱と名付けられたリーフやデザイン的な空調の吹出口など芸術的な部分も魅力的です。



岡山県庁舎



天神山文化プラザ



MAPに Let's go!!

前川國男が 林原美術館に 込めたこだわりを 解説してよ

建築を学ぶ 大学生 ケンチキくん

建築のみどころ ガイドマップ

林原美術館は昭和38年(1963年)に竣工し、昭和39年の開館当時は「岡山美術館」の名称でした。昭和61年に改称し、「林原美術館」となっています。

前川國男がはじめて手がけた美術館建築で、平面計画や構造的な手法を含めて、前川建築の中でも重要な建築物として位置づけられています。

令和5年に登録有形文化財に登録されています。

▼焼き過ぎレンガ



林原美術館一番の特徴は、このオレンジ色の外壁です。

この外壁は焼き過ぎレンガを積んだ壁とコンクリートの壁が一体となったものです。焼き過ぎレンガは、通常より高温で焼かれたレンガのことです。

四国の観音寺の窯の廃材を利用しているため、形がいびつなものも多いです。材料費はかからず運搬費だけで調達できました。

レンガで覆った外観は、1960年代以降の前川の特徴である「打ち込みタイル」の前身といわれています。

※打ち込みタイルとは？

コンクリートを流す型枠の内側に直接タイルを取り付け、コンクリートを打ち込むことで、コンクリートとタイルを一体化する工法



和とマ4
麻材のレンガが
しるすのま



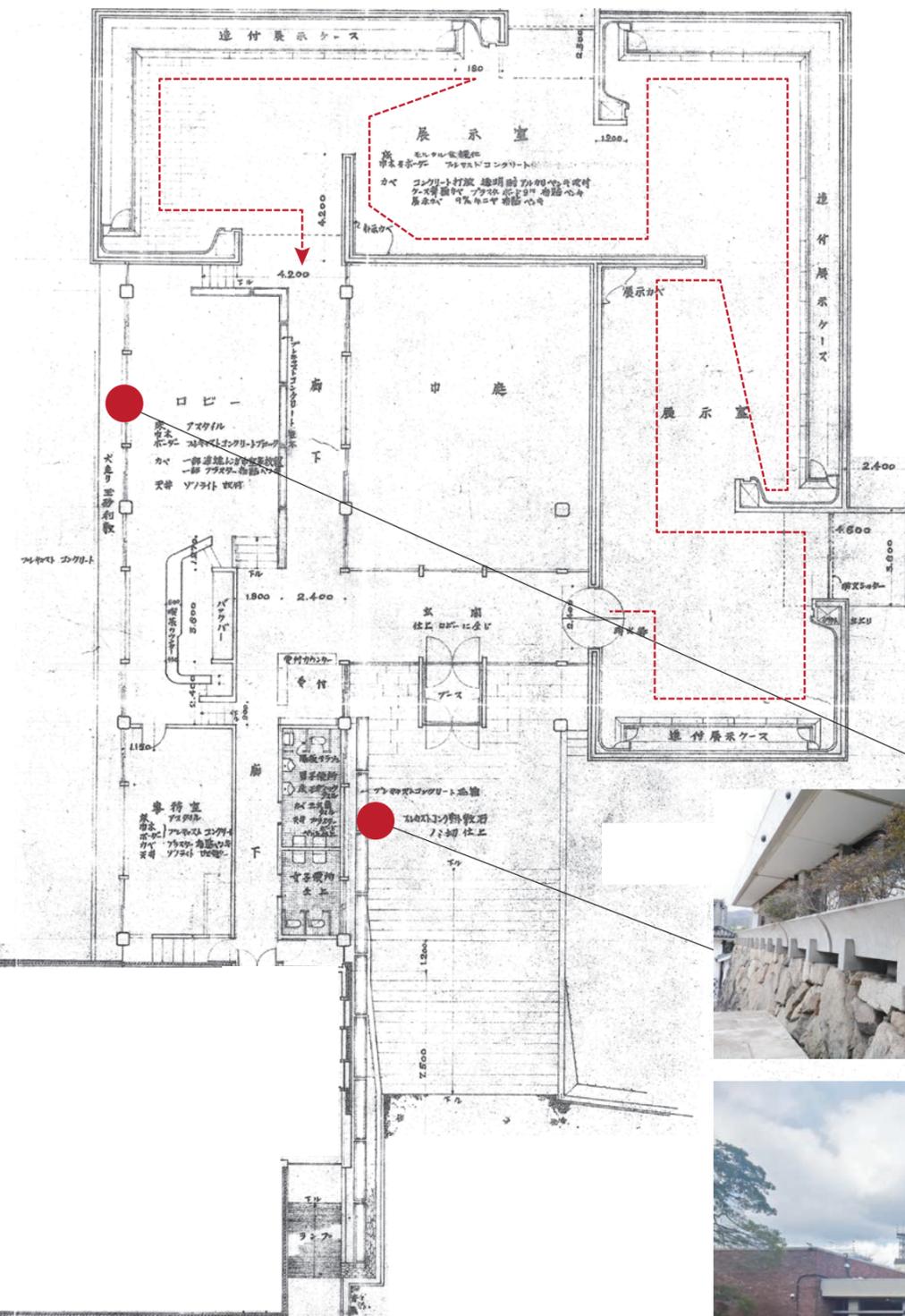
場所によつてレンガの積み方が異なる!

風景を取り込む日本的な「ま」...

▶一筆書きの空間構成

玄関に入ると目の前に中庭があり、中庭を中心に反時計回りにL型の壁で囲まれた展示室があります。展示室に柱はなく、L型の壁が流れるように展開することで、人の動きの流れをつくり、流動的で回遊性のある空間構成になっています。この空間構成を「一筆書き」といい、前川建築では林原美術館を原点とし、その後の美術館建築に多用されました。

中庭を中心とした一筆書きの空間構成は、前川國男の師であるル・コルビュジェが設計した国立西洋美術館の影響を受けています。



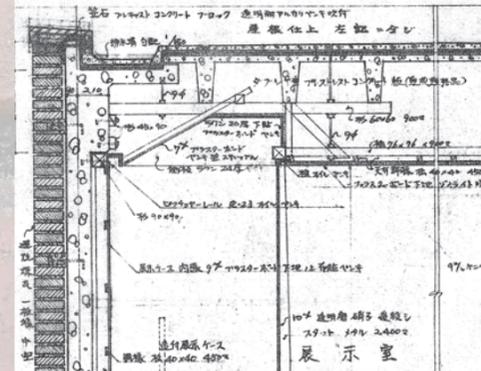
▶プレストレストコンクリート屋根

屋根には「T型のプレストレストコンクリート板」が使われています。

当時は新しい工法であり、前川建築でプレストレストコンクリートが使用されたのは、林原美術館が最初です。普通のコンクリートに比べて、大きな架構を容易に計画できます。これにより、展示室、ラウンジを柱がない広々とした空間とすることができました。

※プレストレストコンクリートとは？

コンクリートの内部の引張力が生じるところにあらかじめ圧縮力を与えることにより、コンクリートのひび割れを防止し、強度や耐久性を増加させたもの



屋根・外壁断面詳細図

▼2種類の構造体



展示室は、9.6m×9.6mのグリッドの壁構造(壁で支える構造)でL型の壁に囲まれた、閉じた空間となっています。コンクリートの外側には焼き過ぎレンガが積まれています。外壁が二重になっているため、風雨を防ぎ、時間の流れに耐える建物となっています。



壁に導かれて自然と人の流れができるようになる。さる!



ラウンジと庭がー続きのよう感じられ、開放的なくつき空間が生まれているよ



ラウンジは、8.4m×8.4mのグリッドの柱のみでプレストレストコンクリート屋根を支えており、壁を設ける必要がないことから、全面ガラス張りとし、内外をつなぐ開かれた空間となっています。

◀プレキャストコンクリート

工期短縮、工業化を図る意図で前川建築では多く用いられた工法です。林原美術館でも様々な場所で使用されています。

花箱、中木、窓台、格子など細部にこだわった打放しのプレキャストコンクリートとなっています。

※プレキャストコンクリート
工場で製作したコンクリートのこと

◀外観（芝生の庭から）

コンクリートの外側にレンガを積んだ外壁の箱を打放しコンクリートの水平底でつなげた外観は後の「埼玉県立歴史と民族の博物館」、「ケルン市美術館」でも見られ、原点は林原美術館といわれています。

※埼玉県立歴史と民族の博物館、ケルン市美術館の外壁は打ち込みタイル